

小林市の

田の神



さあ



小林市教育委員会

はじめに

田んぼの片隅に鎮座している田の神の穏やかな表情を眺めていると、ほのぼのとした気持ちになります。

市内にはたくさんの田の神がおられます。平成19年3月に「小林市の田の神さあ」を発行し10年以上が経過しました。その間、野尻町と合併しその数が増え、また新たな田の神が確認されるなど、改めて当市の田の神を紹介する小冊子が必要との声を受け、本書を刊行することといたしました。

田の神は江戸時代中期の頃より五穀豊穡を願い各地区で田んぼが見渡せる所に置かれた石像で旧薩摩藩領内に見られる独特なものです。また、当市においては神官型と類される厳かな田の神が多く、たびたび噴火する霧島山への畏敬の念とその鎮静を祈って造られたとも言われています。それぞれが表情豊かで、荘厳な出で立ちのものや笑みを浮かべるようなユーモラスな姿など多様な姿を私たちに見せてくれています。

田の神を見て回ると様々な表情に癒されるだけでなく、その当時の小林の人々の生活の様子や社会や文化の様子など多くのことを現代の私たちに教えてくれます。田の神は、その目で古から現代までの時勢の移り変わりを眺めてきたかけがえのない文化財であり、大切にしていきたいものです。

この度「小林市の田の神さあ」の冊子を発刊するにあたり、調査にご協力いただいた小林市ガイドボランティア協会の皆さまに心より感謝申し上げます。

本書が多くの皆様にご活用いただき、文化財愛護の精神が広まることを願っています。

平成31年3月

小林市教育委員会

目次

| | |
|---------------|----|
| 田の神信仰 | 1 |
| 田の神造立の背景 | 1 |
| おっとい田の神 | 1 |
| 二原のおっとい田の神 | 2 |
| 『おっといたのかん』紙芝居 | 3 |
| 小林市の田の神さあガイド | 8 |
| 田の神さあの年代 | 8 |
| 石工「毛利七右衛門」 | 9 |
| 田の神さあの受難 | 9 |
| (小林市の代表的な田の神) | |
| 新田場 | 10 |
| 二原 | 11 |
| 仲間 | 12 |
| 大丸 | 13 |
| 下の平 | 14 |
| 松元の上 | 15 |
| 楠傘礼 | 16 |
| 南島田 | 17 |
| 水落(旧桧坂) | 18 |
| 上岡1 | 19 |
| 夷守 | 20 |
| 中孝の子 | 21 |
| 今別府 | 22 |
| 東大出水 | 23 |
| 西大出水 | 24 |
| 橋谷 | 25 |
| 種子田 | 26 |
| 永田 | 27 |
| 水流平 | 28 |
| 西原 | 29 |
| 八所 | 30 |
| 大王 | 31 |
| 牟田原 | 32 |
| 今別府 | 33 |
| 西上ノ原 | 34 |

| | |
|--------------|----|
| (その他各地区の田の神) | |
| 真方地区 | 35 |
| 東方地区 | 36 |
| 水流迫地区 | 36 |
| 堤地区 | 36 |
| 細野地区 | 37 |
| 南西方地区 | 40 |
| 北西方地区 | 42 |
| 須木地区 | 43 |
| 三ヶ野山地区 | 44 |
| 東麓地区 | 46 |
| 紙屋地区 | 50 |
| (田の神分布図) | |
| 全体分布図 | 54 |
| 真方・東方周辺 | 55 |
| 水流迫・堤・細野周辺 | 56 |
| 南西方・北西方周辺 | 57 |
| 須木周辺 | 58 |
| 須木内山周辺 | 59 |
| 三ヶ野山・東麓周辺 | 60 |
| 東麓・紙屋周辺 | 61 |

例 言

- 1 本書は、平成 29 年から平成 30 年にかけて調査した宮崎県小林市における「田の神像」を収録した。
- 2 田の神の位置は、平成 30 年 12 月時点での位置である。また、掲載している緯度経度はあくまで目安であり、その位置をピンポイントで示すものではない。
- 3 田の神は、今回の調査によって確認できたものをすべて掲載している。その中には実際には異なる形状や造立趣旨であるが、現在「田の神」と呼ばれているものも含む。また、詳細は不明であるが「田の神」の可能性のあるものも掲載している。
- 4 田の神は、各地域にとってかけがえのない神様（守り神）である。見学に際しては敬意を払い、交通ルール等を守って見学していただきたい。

田の神信仰

田の神は、地域によって呼び名は異なりますが古来より日本各地で稲作の豊凶を見守り、豊作をもたらす神として信じられてきました。この農耕神としての田の神をまつる習俗は地域によって様々ですが全国各地で行われています。

江戸時代より薩摩藩では、この田の神を石に刻んで田の神像とし、広い田んぼを見渡せる位置に座らせ、豊作を約束する五穀豊穰の神として信仰してきました。宮崎県では、西諸・北諸・東諸の地方が旧薩摩藩であり各所に田の神像が祀られていますが、現在では明治時代以降の人々の移動によりその分布が広がっています。田の神像の姿形は様々ですが、小林市においては神官型と呼ばれる荘厳な田の神が多く分布しています。これは小林に田の神が伝わる直前の江戸時代享保元年に霧島山の新燃岳が大噴火を起こして、神社や家屋、山林だけでなく農作物等にも大被害をもたらしたことから、山の神の怒りを鎮める願いを込めて、このような姿になったとも言われています。

田の神造立の背景

薩摩藩において田の神像が多く造られた背景には、当時藩が領内で新田開発に積極的に取り組み田んぼが増えたことと農民の生活事情があったと考えられています。当時の農民は、収穫の大半を年貢として納めるだけでなく、平日に酒を飲むことや大人数で集まることなどが禁止され、とても苦しい生活を強いられていました。薩摩藩でも農民の苦しい生活は承知していて、春の祈願と秋の収穫の時には田の神像の前で祭り（田の神講）を行うことを黙認していました。楽しみのない農民にとって酒を飲み、日頃のうっぷんを晴らす数少ない機会であることから各地で自発的に田の神像は造られたと思われます。また、この地域では有史以前の34万年前に噴出したとされる加久藤火砕流の所産である溶結凝灰岩が豊富に存在したことや、その石が加工しやすく古来より人々の生活に利用されてきたことで高度な技術を持った石工が存在していたことなども理由として挙げられます。

おっとい田の神

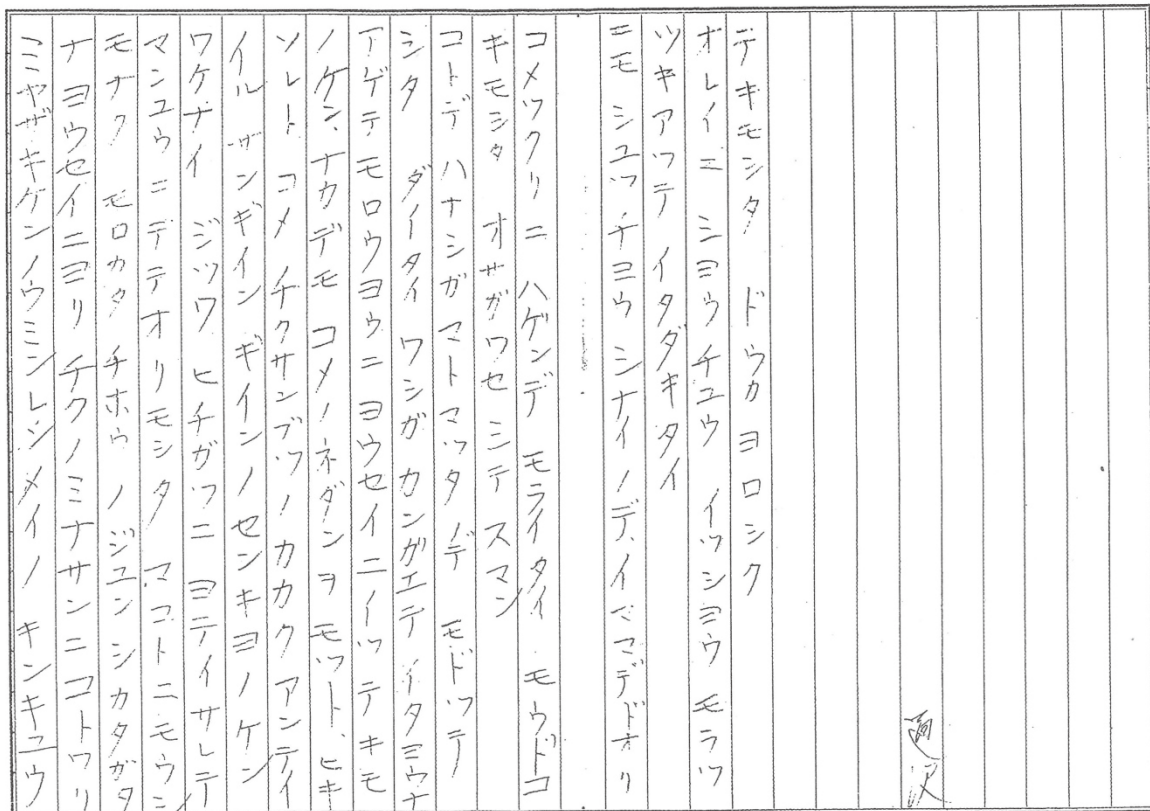
田の神には「おっといたのかん」という風習があります。「おっとい」とは盗むの意味であり、不作で困った地区の人が豊作であった地区の田の神像を夜中のうちに盗み出し、自分の地区に祀るというものです。おかげで豊作となったあかつきには、採れた作物や酒などを携えて盗み出した田の神を元の地区にお返しするというものです。困ったときはお互い様といった関係を具現化したような風習であり、ただ盗み出すだけでなく、時には田の神自身が自分から動いて旅に出ていたといった趣旨のことを田の神の目線で書かれた置手紙を残すなど、ユーモアが溢れる風習でした。盗られた地区の人々は怒って取り返しに行くのではなく、田の神が帰ってくるのを待ったり、新しい田の神を造立するなどしたと言われています。小林市教育委員会ではこの風習をわかりやすく紙芝居にして紹介しています。

二原のおっとい田の神

二原の田の神は、昭和 52 年 5 月 18 日夜から 19 日の朝にかけて、「おっとい田の神」にあり、突然消えて、地区住民をやきもきさせましたが、6 月 8 日にもとの場所から 300m ほど離れた田んぼの畔に焼酎 1 本と置手紙と共に返還されました。これはその時の手紙です。

「田の神さあからの手紙」

【原文】



【現代語訳】

宮崎県農民連盟の緊急な要請により地区の皆さんにことわりもなく諸県地方の巡視かたがた漫遊に出ておりもした。誠に申し訳ない。実は七月に予定されている参議院議員の選挙の件、それと米・畜産物の価格安定の件、中でも米の値段をもっと引き上げてもらうように要請に行ってきた。だいたい、わしの考えていたようなことで話がまとまったので戻ってきもした。おさわがせしてスマン。

米作りにはげんでもらいたい。もうどこにも出張しないので、今までどおりつきあっていたきたい。

お礼に焼酎一升貰ってきもした。どうかよろしく。

『おっとい たのかん』紙芝居

企 画：小林市ガイドボランティア協会
協 力：県立小林高等学校美術部
イラスト：谷口久恵(県立小林高等学校美術科教諭)
文 章：小林市ガイドボランティア協会
発 行：小林市教育委員会

この紙芝居は、市内小中学校、市内幼・保育園、市立図書館等に配布しています。
また小林市教育委員会社会教育課でも貸出しを行っています。



小林市の文化財の中で地域の人々に最も根付き親しみのある田の神。

その田の神には「おっといたのかん」という風習があります。「おっとい」とは盗むの意味であり、不作で困った地区の人が豊作であった地区の田の神像を夜中のうちに盗み出し、自分の地区に祀るといいます。おかげで豊作となったあかつきには、採れた作物や酒などを携えて盗み出した田の神を元の地区にお返しするというものです。これは、そんなユーモアと優しさがあふれる風習を紙芝居にしたものです。



第1場面

小林のある地区は、毎年たくさんのお米が採れる田んぼがある事で有名な所でした。
今年も田んぼ一面が黄金色に輝き、たくさんの米が実っていました。

「たくさんのお米ができましたなあ。」
「そうですねあ、今年も豊作ですなあ」

地区の人々は田んぼを見ながら大喜び。



第2場面

「これも、たのかんさあのおかげですなあ。」
「うんうん。今年も感謝をこめて、お供えをふんぱつしましょう。」
「そうじゃな、そうしよう、そうしよう。」

地区の人々は、それぞれ家からお供え物を持ちより、田の神にお供えして、感謝を捧げながら、田の神を囲んで食べたり飲んだりして豊作を祝っていました。



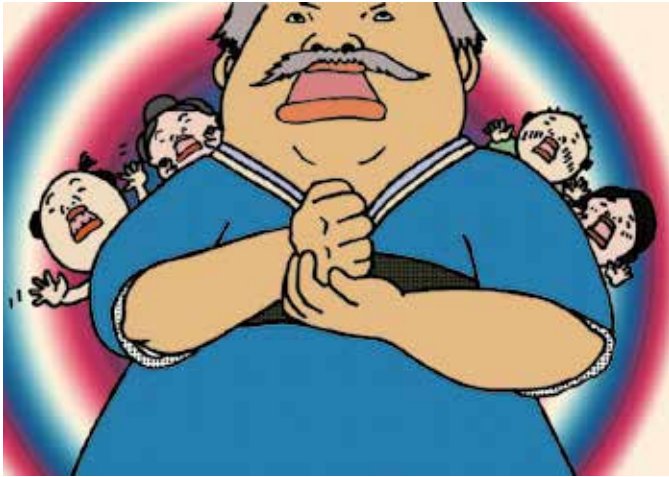
第3場面

先ほどの地区とだいぶ離れた地区では、今年も稲が上手く育ちませんでした。
色々試してみても、なかなかうまくいきません。



第4場面

ある日、地区の人たちは、暗い顔で公民館に集まって話をしています。
「今年も不作じゃったなあ。」
「ふーむ、困ったなあ。」
「困りましたねえ。」
「どうしたものか。」
ここの地区では、何年もの間、米の不作が続いていました。地区の人々は、どうすればいいのかあーでもない、こーでもないと話をしていました。



第5場面

すると、地区で一番の長老が
「最後の手段じゃ、例の作戦でいくか。」
といました。
「そうですね、例の作戦しかないですね。」
「いつやりますか？」
「思い立ったが吉日というな、さっそく今夜とりかかろう。」
人々は、時間を確認してそれぞれの家に帰っていきました。



第6場面

その日の夜も更けたころ、地区の人々は公民館に集まってきました。

「さあ、準備はいいか。」

人々は駕籠をかかえて夜の道を毎年お米がたくさん採れる地区へ向かっていきました。



第7場面

「あ、あそこです。」
地区の人々はあるものを見つけました。
そうです、田んぼにたっている田の神です。
田の神を見つけると、そこに置手紙をして
慎重にゆっくりと持ってきた駕籠に乗せました。

「いいか、大切に運べよ。」
そのまま、地区の人々は自分たちのところへ田の神を運んでいきました。



第8場面

次の日、田の神がなくなっていることに気付いた地区の人々は大騒ぎして、田んぼに集まってきました。

「どうしたんだ。」 「田の神が消えてる。」
「なんだって!?!」

田の神が置いてあった場所をみると手紙がありました。読んでみると

(みんな、心配しないでくれ。しばらく旅に出かけてくる。2年たったらもどってくるからその時は、お迎えに来てくれ。)

という内容が書かれていました。



第9場面

そのうち、ふと、誰かが

「きっと、お米がなかなか採れない所の人たちの田んぼに旅にいったんじゃないか。」

といました。

「2年たったら、盛大に出迎えてやろうじゃないか。」

「そうじゃな。」 「そうしよう。」 「そうしよう。」

人々は口々にそういいました。



第10場面

そして、

2年後、田の神は大事に駕籠に乗せられ、米・餅・焼酎とともに元の地区に帰ってきました。



第11場面

「勝手におととって、いってすみませんでした。」

取っていった地区の人たちがあやまります。

「いえいえ、それで米の出来具合はどうでしたか？」

「おかげさまで、今年は豊作で助かりました。」

「それはそれは、よかった。」



第12場面

「たのかんさあのおかげです。田んぼでとれた米や餅を持ってきました。」

「おお、ありがたい、どうですか、一緒にたのかんさあを囲んで豊作を祝いませんか？」

「そうしましょう。」

「食べましょう、飲みましょう。」

どちらの地区の人も、にこにこしながら田の神を囲んで、朝まで食べたり飲んだりしたそうです。

情けは
人のためならず

困ったときは、お互い様だね

情けは人のためならず

困ったときは、お互い様だね

※情けは人のためならず

「情けは人のためだけでなく、いずれ巡り巡って自分に恩恵が返ってくるのだから、誰にでも親切にせよ」という意味。

小林市の田の神さあガイド

- 田の神は、この地域では親しみを込めて「たのかんさあ」と呼ばれています。
- 田の神は、聖的な神仏ではなく、庶民的な神仏です。汚しても転がしても決してたたらない優しい神様であり、盗まれて他所へ連れて行かれても不平を言わず、行った先々で田んぼを守ってくれます。
- 田の神は春の祈願祭や秋の収穫祭の時に祈りや感謝を込めて化粧をします。元々は白粉や墨、ベンガラ朱などで化粧をしていましたが、現代ではペンキによる化粧もあります。
- 小林市の田の神は江戸時代から現代まで数多く造られ、それぞれ顔・形が違います。その姿形から各研究史により多様な分類がされていますが、主に「神官型（神像型）」「仏像型（地藏型、僧衣型）」「農民型（田の神舞型）」「自然石型（石碑型）」といった4つに大分されています。多くの田の神さあを見て好きな田の神さあを探してみてください。
- 田の神には、背中や肩、台座などに文字が刻まれえているものがあります。造られた年代や造った人（石工）、造るのを依頼した人（製作費用を出した人）、または、造られた理由などが刻まれているものもあります。正面だけでなく周囲をくまなく観察してみてください。
- 田の神は、各地域にとってかけがえのない神様（守り神）です。見学に際しては敬意を払い、交通ルール等を守って見学してください。

田の神さあの年代

現在、宮崎県内で一番古い田の神が新田場の田の神（享保5年）とされています。江戸時代の享保年間に造られた田の神は他にもあります。

| | | | |
|----------|--------------|------------|--------------------|
| ・川 無 | 享保2年（1717年） | [本冊子番号 36] | ※田の神ではなく水神碑の可能性が高い |
| ・新田場 | 享保5年（1720年） | [本冊子番号 1] | |
| ・仲 間 | 享保7年（1722年） | [本冊子番号 3] | |
| ・中孝の子 | 享保7年（1722年） | [本冊子番号 12] | |
| ・南島田 | 享保7年（1722年） | [本冊子番号 8] | |
| ・楠牟礼 | 享保9年（1724年） | [本冊子番号 7] | |
| ・東大出水 | 享保10年（1725年） | [本冊子番号 14] | |
| ・水落（旧桧坂） | 享保10年（1725年） | [本冊子番号 9] | |
| ・今別府 | 享保16年（1731年） | [本冊子番号 13] | |
| ・大 王 | 享保18年（1733年） | [本冊子番号 23] | |

反対に小林市で一番新しい田の神は、高月の田の神で平成21年（2009年）次いで夷守の田の神が平成15年（2003年）です。

| | | |
|------|--------------|------------|
| ・高 月 | 平成21年（2009年） | [本冊子番号 43] |
| ・夷 守 | 平成15年（2003年） | [本冊子番号 11] |

石工「毛利七右衛門」

享保年間の田の神には、石工（造った人）として「毛利七右衛門」という名が刻まれてあるものがあります。実はこの石工の名は田の神像だけでなく、仁王像や水神碑などにも作者として刻まれており、大変興味深いものです。

【「毛利七右衛門」と刻銘のある石造構築物】

- ・八王子神社仁王像 享保 7 年（1722 年）
- ・仲間の田の神像 享保 7 年（1722 年）
- ・中孝の子の田の神像 享保 7 年（1722 年）
- ・南島田の田の神像 享保 7 年（1722 年）
- ・加久藤 栗下田の田の神像 享保 9 年（1724 年）
- ・高原 広原井手の上の田の神像 享保 9 年（1724 年）

【「勝岡石切 七右衛門」と刻銘のある石造構築物】

- ・霧島岑（雛守）神社仁王像 享保元年（1716 年）
- ・堤地区川無水神碑 享保 2 年（1717 年）

「勝岡石切七右衛門」と「毛利七右衛門」は同一と考えられています。「勝岡」は江戸時代島津氏領諸県郡勝岡郷で、現在の三股町蓼池辺りを指しているものと思われます。また、享保 7 年に代表されるように、たった一年で多くの石像を製作していることから、個人ではなく毛利七右衛門を代表とする石工集団が勝岡（三股町）に存在していたのではと考えられています。

さらに立野 2 の田の神像や三ヶ野山地区菅原神社神像には「毛利雅楽」の刻銘が確認されており、子孫または後継者の存在や石工集団としての「毛利」が時代を通して存在していたことが証明される資料として大変興味深いものです。

【「毛利雅楽」と刻銘のある石造構築物】

- ・三ヶ野山地区菅原神社神像 延享 2 年（1745 年）
- ・立野 2 の田の神像 年代不明

田の神さあを受難

田の神は、基本的に田んぼ（屋外）に置かれる石造物であるため、長い年月雨風を受け破損することがあります。特に首の部分は面積が狭いため破損しやすく、そのままのものもあれば不憫に思った地区住民が違う物に乗せたり、別の石造物の頭に乗せセメントで付けたりと様々です。

破損の原因としては、経年劣化や「おっとい」など移動中の破損もありますが、歴史的な要因としては、明治時代初期の廃仏毀釈が挙げられます。これは明治維新後に発生した神仏分離を押し進めるあまり仏教寺院や仏像を破壊する動きのことですが、田の神も例外でなく特に仏像型の田の神は破壊の対象となったと言われています。

田の神をよく観察してみると首に継ぎ目の見える田の神があります。顔と体の様相が異なるため、神官型なのか仏像型なのか判断ができない田の神になってしまうのです。

小林市の田の神さあ

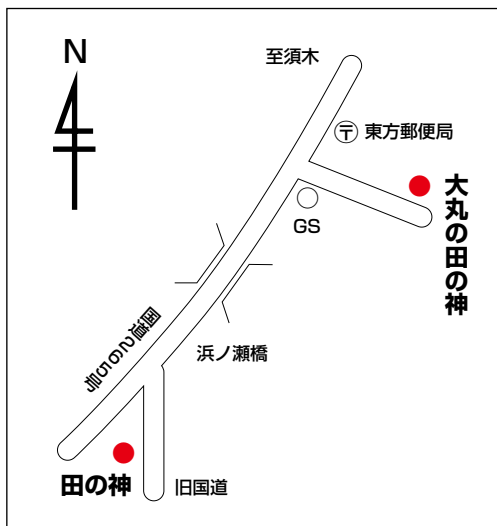
(代表的な田の神)



1 新田場 (しんでんば) ～宮崎県で一番古い田の神さあ～



- 場 所 : 真方字新田場
- 緯 度 : 32° 0' 27.9"
- 経 度 : 131° 0' 8.48"
- 像 高 : 100cm
- 像 幅 : 70cm
- 持 物 : 右手なし、左手破損
- 冠 物 : 烏帽子 (えぼし)
- 年 代 : 享保5年2月9日 (1720年)
- 奉納 (建立) 者 : 本田権兵衛



P55 I-5

【背中刻銘拓本】



享保五寅天
二月初九日
奉造立田御神御体
施主
本田権兵衛

旧国道沿いの脇に鎮座しています。

この田の神さあは、宮崎県内に現存する田の神さあのなかでも最古のもので、「享保5 (1720) 年2月9日」と彫られた文字が像の背中に見ることができます。

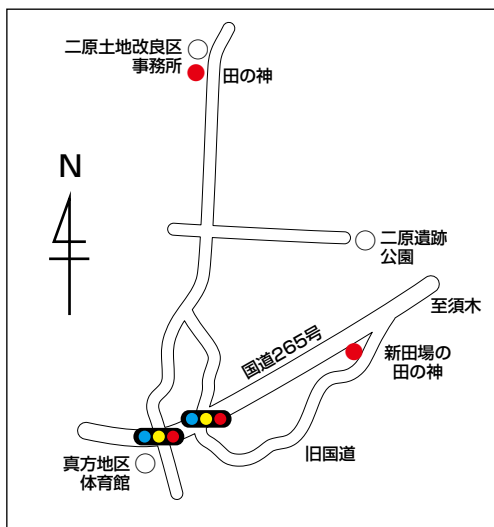
享保元年 (1716 年) から享保2年は新燃岳で大噴火があり、この地域にも大きな被害を与えたと言われています。享保5年は噴火の恐れがまだ強く残っている頃と考えられ、神官型の田の神は山の神の怒りを鎮めるために造られたと言われています。



【こばやし文化財かるた】



- 場 所：真方字北二原
- 緯 度：32° 1′ 20.3″
- 経 度：130° 59′ 40.6″
- 像 高：86cm
- 像 幅：57cm
- 持 物：右手は受け手、左手に稲穂
- 冠 物：袋頭巾
- 年 代：大正8年4月6日（1919年）
- 奉納（建立）者：永友繁蔵



P55 H-5

着衣や右手の受け手を見ると菩薩像にも見えますが、左手の稲穂や頭巾などから田の神舞を踊る農民にも見えます。

この田の神は、前面に広がる二原台地の開田記念式典当日の大正8年4月6日に設置されました。この土地の開田は、明治34年（1901）に地元の人々によって始められたが用水路の決壊などで中断していました。大正2年に有吉忠一知事の決断で県の事業として起工し、大正4年に完工しました。東と西の二つの台地で約200畝の広さです。田の神像の隣には「開田記念の碑」が立ち、開田の経過を詳しく刻んでいます。

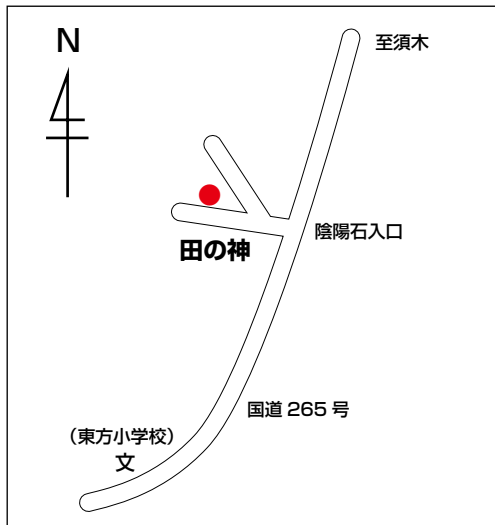
【二原のおっといたのかん】

この田の神は昭和52年5月18日夜から19日の朝にかけて「おっとい田の神」に遭い、地区住民をやきもきさせましたが、6月8日にもとの場所から300mほど離れた田んぼの畔に置手紙と焼酎を1本持って元の場所に無事帰ってきました。その手紙には、『宮崎県農民連盟の要請があって諸県地方を漫遊してきた。参院選と米価の引き上げ養成のためしばらく留守にしていた申し訳ない。もうどこにもいかないからこれからもよろしく』と田の神目線で書かれていたそうです。ユーモアと優しさがあふれる風習ですね。

3 仲間（なかま） ～歴史もあって、珍しい姿、人気No1の田の神～



- 場 所 : 東方字陰陽石
- 緯 度 : 32° 0' 58.5"
- 経 度 : 131° 0' 36.6"
- 像 高 : 123cm
- 像 幅 : 68cm
- 持 物 : 御幣、シャモジ
- 冠 物 : 蓮葉冠
- 年 代 : 享保7年3月 (1722年)
- 奉納(建立)者 : 伝吉、清左工門
- 製作者(石工) : 毛利七右衛門



国道 265 号線から陰陽石に向かう道路沿いにあります。唐獅子彫刻の台座の上に法衣を着て立ち、頭に蓮葉のような冠を被る珍しい姿をした田の神です。建立の年代も古く市内で2番目に古い田の神です。

最近ではペンキによる化粧直しが多い中、この田の神は現在もベンガラを使用した化粧直しが行われていて大切に保存されている貴重な文化財です。

P55 H-6

享保七年三月七日寅
 清左衛門
 傅吉
 清左衛門
 毛利七右衛門

【背中刻銘】

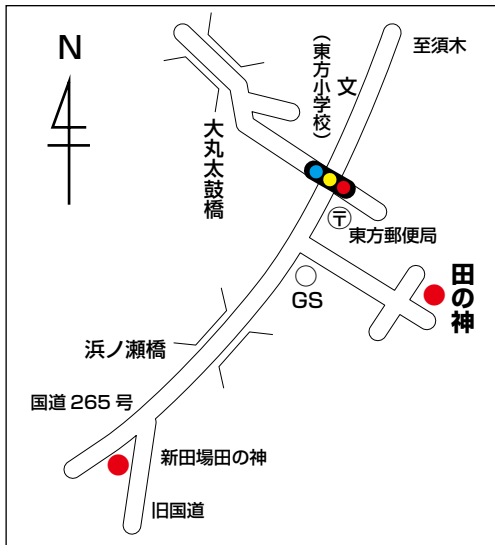


【こばやし文化財かるた】

4 大丸（おおまる） ～田んぼに囲まれたベストオブ田の神さあ～



- 場 所： 東方字黒土田
- 緯 度： 32° 0′ 27.6″
- 経 度： 131° 0′ 25.1″
- 像 高： 76cm
- 像 幅： 36cm
- 持 物： 右手にシャモジ、左手に碗
- 冠 物： 笠
- 年 代： 不明
- 奉納(建立)者： 不明



P55 I-6

笠をかぶりシャモジと碗をもった農民型の田の神です。その姿形に加え、やさしい顔をして田んぼに囲まれた場所に立っている様子こそ、これぞ田の神といったものです。

田の神の隣には大丸地区の開田碑（昭和36年2月17日に大丸土地改良区により建立）が立っていますが、田の神については記述がなく田の神の年代については不明です。

この地区の田んぼは北西側にある東方大丸太鼓橋（水路橋）が江戸時代末期に架けられたことによって開田されたと言われており、それ以降に造られたと思われます。

【東方大丸太鼓橋】

この橋は弘化四年（1847）に薩摩の豪商森山新蔵が私費で造ったものです。県内最古級の石橋として宮崎県指定有形文化財となっています。大丸地区では、浜ノ瀬川の東側へは木造樋で通水していましたが、洪水のたびに補修が必要で、また、人馬も通れず大変不便でした。橋が完成してから、用水、人馬の便は画期的に改善され、開田面積は拡大し、森山は大丸開田事業を成功へと導きました。

その後、森山は大丸開田や鹿児島藩の財政再建に貢献した功績から士分に取り立てられ、西郷隆盛や大久保利通らと関係が深く、政治資金の援助者であったともいわれています。



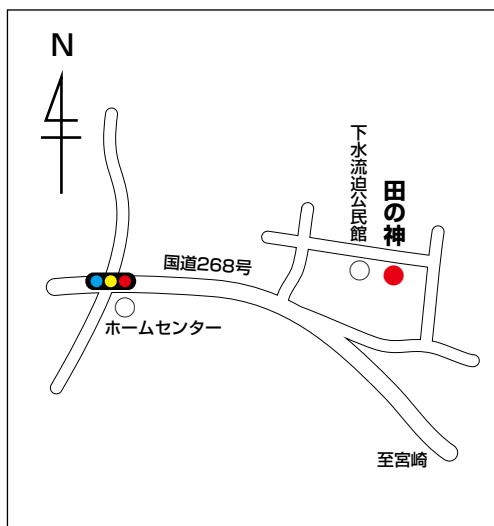
【こぼやし文化財かるた】

5 下の平（したのひら）

～地区住民の約百年の努力～



- 場 所： 水流迫字下の平
- 緯 度： 31° 58' 48.2"
- 経 度： 131° 0' 31.8"
- 像 高： 56cm
- 像 幅： 48cm
- 持 物： なし
- 冠 物： 烏帽子
- 年 代： 昭和8年4月（1933年）
- 奉納(建立)者： 福本庄之助



P56 L-6

下水流迫自治公民館の東側に自然石の馬頭観音と一緒に鎮座している田の神です。昭和8年に水流迫地区の開田を記念して建立されました。同じく公民館敷地内に建立されている記念碑によると、水流迫地区に水田を作るべく、江戸時代末期より石氷川から水を引き、多くの人々が水路工事に取り組み、明治・大正と時代を経ながら水量不足や資金不足など様々な困難に立ち向かい大正13年に水流迫開田が完成したと書かれています。

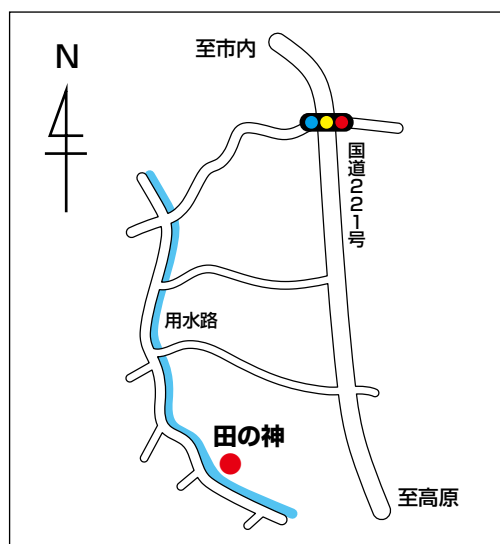


- 中央 【水流迫開田記念碑(大)】
昭和8年4月建立
江戸末期から大正13年の完成までの多くの困難と苦勞、人々の努力と思いが記されています。
- 右 【水流迫開田記念碑(小)】
明治32年建立
工事助手として野尻原開田の「田丸貞重翁」の若き日の名前もあります。

6 松元の上（まつもとのうえ） ～ユーモアあふれる田の神～



- 場 所： 堤字松元の上
- 緯 度： 31° 57' 30.7"
- 経 度： 131° 0' 7.53"
- 像 高： 76cm
- 像 幅： 60cm
- 持 物： 右手にシャモジ、左脇に四角の杓
- 冠 物： シキ
- 年 代： 弘化3年7月(1846年)
- 奉納(建立)者： 不明



P56 N-6

この地区の田んぼに水を供給する用水路沿いで民家の横に鎮座しています。荘厳な神官型とは違い、頭にはシキと呼ばれるわら製の編み物を被り、右手にはシャモジ、左手には四角の杓を持っている農民型です。さらには両足を出し、少し斜に構えた格好していることでいまにも動き出しそうな躍動感あふれる特徴のある田の神さあです。

傍らには田の中から出土した地蔵幢(寛政3年2月吉祥日)の残欠も安置してあります。

【上木場の田の神との関係】

小林史談会発行ひなもり4号『堤・郷土巡り』飯田友春氏によると、元々上木場の田の神がこの地の田の神としてあったが、この地区が豊作で出来栄が良いことから、『おっといたのかん』にあった。三年後になっておっといをした地区の住民が元の位置に戻そうとしたところ、誤って首を折ってしまったために別の田の神を製作してこの地に返した。これが松元の上の田の神で、首が取れてしまった田の神も捨てられず、田中の鼻に祀られたとのこと。

【川無用水について】

田の神の面前を流れる用水路は、辻の堂川を川無地区の上で堰き止めて水溝を開き、堤水田の最も高い所を用水路が西から東へ約4kmにわたって流れ、傾斜地を利用し広く灌漑しています。西から東へ流れる用水路は、国道221号線付近で再び辻の堂川へ水に戻します。江戸時代の享保2年に薩摩藩のいわゆる公共事業として開発され、その後長い年月の間に水路が延長され、開田も拡張されたものと思われます。

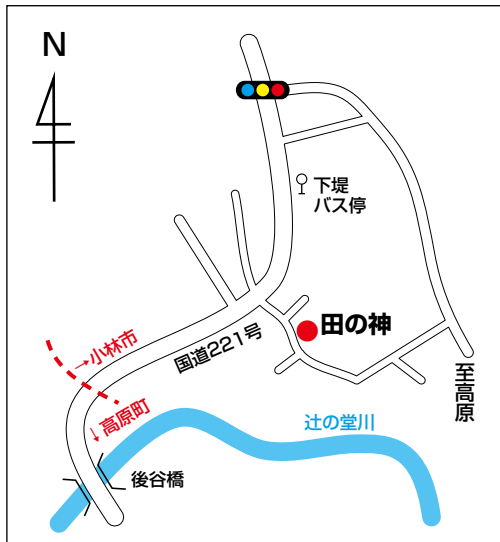
7

楠牟礼 (くすむれ)

～ひっそりと佇む歴史ある田の神～



- 場 所 : 堤字楠牟礼
- 緯 度 : 31° 56' 56.5"
- 経 度 : 131° 0' 27.1"
- 像 高 : 72cm
- 像 幅 : 64cm
- 持 物 : なし
- 冠 物 : 欠損し不明
- 年 代 : 享保9年 (1724年)
- 奉納 (建立) 者 : 不明



国道221号線、下堤バス停付近を左折し少し進んだ畑に馬頭観音と一緒にひっそりと鎮座しています。頭と顔は欠損していて不明です。服装は僧衣に見えるため仏像型と推察できます。

この田の神が鎮座している場所は、堤の水田地帯に水を供給する川無用水の終着地点付近であるため、地元の人からは水神様としても祀られています。

P56 O-6

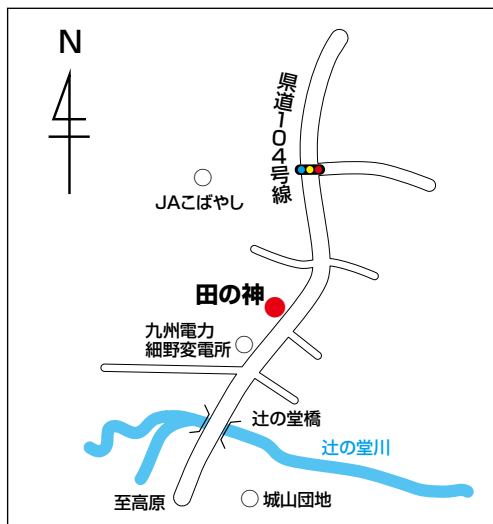
【右側側面に記銘】



『享保九甲辰』



- 場 所 : 細野字島田前
- 緯 度 : 31° 59' 17.0"
- 経 度 : 130° 58' 8.09"
- 像 高 : 78cm
- 像 幅 : 62cm
- 持 物 : なし
- 冠 物 : 烏帽子
- 年 代 : 享保7年(1722年)
- 奉納(建立)者 : 不明
- 製作者(石工) : 毛利七右衛門



P56 K-3

県道沿いの傍らでセメントブロックで造られた祠に鎮座する田の神です。像の背中はブロックの壁で見えづらいですが、「享保七壬寅天」の紀年銘に加えて「御神普守護所」の造立趣旨、「彫者毛利七右衛門」が読めます。

この辺りは石氷川に堰を作り長い用水路で市の中心部に水を注いでいた中央水路の終点になる場所で以前はここまで水が十分に届かず大変苦勞したという話が伝わっています。

【「御神普守護所」の意味】 味

この文は「おん かみ あまねく しゅごする ところ」と読み、小林史談会発行「ひなもり第51号」『私説・郷土史散歩(4)』杉本充氏によると「普」とは広く行きわたるの意味があり、この田の神は五穀豊穡だけでなく住民の生活や人心の安定を「普く守護」することを願い造られたとしています。

さらにこの願いが込められた背景には像が造られる前の享保元年から2年にかけて発生した新燃岳の大規模な噴火で農作物をはじめ田畑・灌漑用水施設などに甚大な被害を与え、人々に噴火への恐怖を植えつけたことに由来するとしています。人々は山の神の怒りを鎮め、安心して農作物を育てる生活が送れるよう祈りを込めて田の神を造り祀ったということです。

9 水落（みずおとし） ～引っ越しをくりかえす田の神～



- 場 所：細野字中島
- 緯 度：31° 59′ 17.0″
- 経 度：130° 58′ 8.09″
- 像 高：81cm
- 像 幅：75cm
- 持 物：笏(しゃく)
- 冠 物：烏帽子
- 年 代：享保10年10月(1725年)
- 奉納(建立)者：4～5名(判読不能)



P56 L-3

県道 104 号線、新田組合前バス停から北に 100m 程進み十字路を右に曲がり、少し進んだ所の水田前に鎮座しています。この田の神は、終戦後しばらくは桧坂と呼ばれる高台にあって「桧坂の田の神」と呼ばれていましたが、道路拡張に伴い現在地周辺に移動し、移動した先でも道路拡張により引っ越しをよぎなくされ現在地に至ります。

背中には年代と寄進者と思われる4～5の人物名と造立趣旨と思われる「奉寄進大御支配」の文字が刻まれています。

【背中刻銘拓本】

| | | | |
|---|--------------------------|--------------------------|--------------------------|
| 奉 | 享 | | |
| | 十 | 保 | |
| | 月 | 九 | |
| 寄 | 吉 | 天 | <input type="checkbox"/> |
| 進 | 日 | | <input type="checkbox"/> |
| 大 | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| 御 | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| 支 | 右 | <input type="checkbox"/> | 右 |
| 配 | 長 | エ | 兵 |
| | 助 | 門 | 助 |
| | | 衛 | エ |
| | | | 門 |

10 上岡1 (かみおか) ～水を求めて住民が結束～



- 場 所 : 細野字岡
- 緯 度 : 31° 59' 53.4"
- 経 度 : 130° 57' 34.6"
- 像 高 : 69cm
- 像 幅 : 54cm
- 持 物 : 右手にシャモジ
- 冠 物 : 烏帽子
- 年 代 : 昭和8年8月(1933年)
- 奉納(建立)者 : 熊迫水利組合



P55 J-2

県道1号線、孝の子交差点から県道 53号線へ入って1本目のY字路を右折、道なりに突き当たりまで行き右折すぐT字路を右折した左側に鎮座しています。大きな像で右手にシャモジを持った神官型の田の神です。



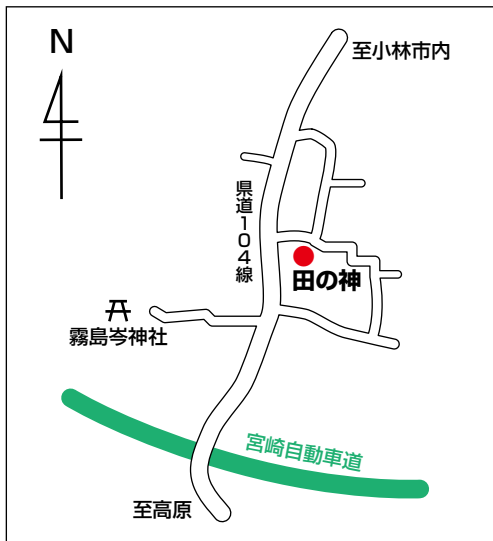
【台座の刻字について】

田の神が座る台座の正面には「昭和8年は例年がない大干ばつとなり、かんがい用水が不足し耕作人は大変困った。関係者が一致協力し時間給水を守り、かんがいが出来たことを記念して建立した」とあります。側面には関係した発起人、関係者、水守など多くの人たちの名が刻まれていて、住民が団結して困難に立ち向かったことを今に伝える田の神です。

11 夷守（ひなもり） ～今も受け継がれる田の神文化～



- 場 所 : 細野字中夷守
- 緯 度 : 31° 58' 1.20"
- 経 度 : 130° 57' 40.8"
- 像 高 : 77cm
- 像 幅 : 33cm
- 持 物 : 右手にシャモジ、左手に碗
- 冠 物 : 笠
- 年 代 : 平成15年3月(2003年)
- 奉納(建立)者 : 夷守竹山土地改良区



P56 M-2

県道 104 号線、夷守バス停（小林市コミュニティバス）から北に進み、一つ目の T 字路を右に曲がって突きあたりまで行くと右側に、鎮座しています。

横に建つ記念碑によると平成10年～平成13年にかけて圃場整備事業が行われ、その完成を喜び地域の発展と豊作を願い記念碑と田の神を建立したと記されています。

【受け継がれる田の神文化】

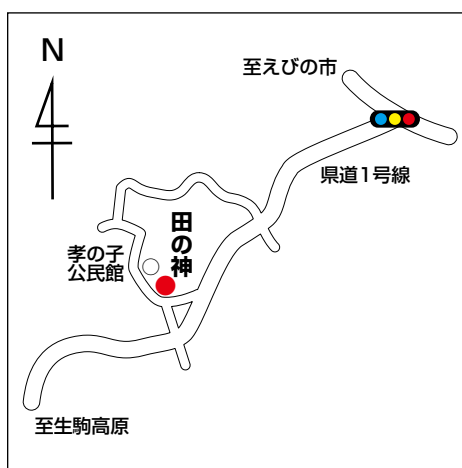
夷守の田の神は平成 15 年、高月の田の神 (No.43) は平成 21 年に建立された新しい田の神さあです。田の神像は江戸時代から造られ現在でも造られています。現代で造られる田の神像が観光や芸術目的での造形物として造られることが多いなか、これらの田の神は本来の田の神造立趣旨である自分たちの地区の五穀豊穡や開田を記念して造られたものです。

私たちの里の田の神さあは、江戸時代から存在し明治・大正・昭和、そして現在と居場所や姿形を変えながらいつも私たちの暮らしを見守ってくれています。このすばらしい郷土の文化を未来にもぜひ伝えていきたいものです。

12 中孝の子（なかこうのこ） ～こばやしで一番大きい田の神～



- 場 所 : 南西方字堂田
- 緯 度 : 31° 59′ 24.7″
- 経 度 : 130° 57′ 5.32″
- 像 高 : 135cm
- 像 幅 : 55cm
- 持 物 : なし
- 冠 物 : 烏帽子
- 年 代 : 享保7年11月(1722年)
- 奉納(建立)者 : 孝の子地区の七つの門
- 製作者(石工) : 毛利七右衛門



P56 K-1

孝の子公民館の隣に座らずに立っています。高さは135cmと市内では一番大きな田の神です。

像の前面に「享保七寅□十一月吉祥日」の紀年銘、「之御神普守護所」の造立趣旨（南島田の田の神ページ参照）が刻まれており、背面に作者名と寄進者七門が刻まれています。

【小林市で一番大きな田の神さあ】

地元の方の話では、昭和 42 年頃一夜にして頭が破壊され、その後新しい頭を乗せたということです。そのため、お顔は烏帽子を被った神官型、体は僧衣をお召しになった僧侶型となっています。また、「おっとい田の神」を防ぐために大型の像を造ったともされています。

【七つの門について】

江戸時代に農民の家 5 ～ 20 軒が集まった組織を門(かど)といい、村の基礎的な単位で一定の地域にまとまって居住していました。農業や日常生活も門ごと協働して行われていたとされています。中孝の子の田の神は周辺の七つの門が合同で製作したと考えられます。

13 今別府 (いまべっぴ) ~五つの家が協力して建立~



- 場 所 : 南西方字小田方
- 緯 度 : 31° 59' 24.7"
- 経 度 : 130° 57' 5.32"
- 像 高 : 64cm
- 像 幅 : 59cm
- 持 物 : なし
- 冠 物 : 烏帽子
- 年 代 : 享保16年2月(1731年)
- 奉納(建立)者 : 五ヶ村中



県道53号線沿いにある消防団詰所敷地裏に鎮座しています。顔はやや風化しているものの朱色の衣に烏帽子を被り、両手を組んで坐している神官型の田の神です。

像の背面には奉納者とされる「五ヶ村中」の文字と「享保十六年二月吉日」の紀年銘の刻字があります。

P57 S-5

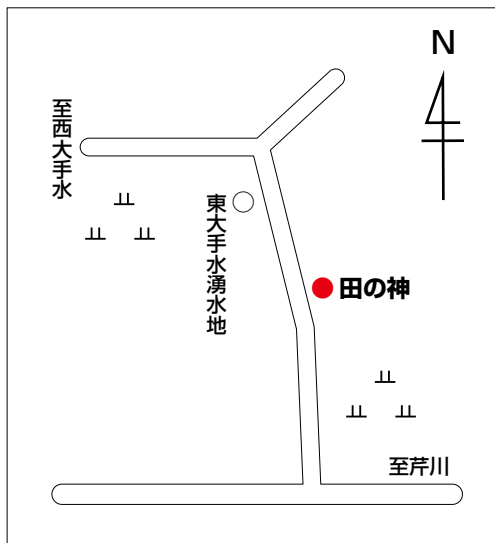
【「五ヶ村中」の文字について】

今別府の田の神の背面に刻まれている五ヶ村とは「上今別府門」「下今別府門」「中之屋敷」「小出水屋敷」「岡之藺門」の5門ことであり、この5門を五ヶ村と呼んでいたということです。中孝の子の田の神と同様周辺の門(かど)が合同で製作したものと考えられます。

14 東大出水（ひがしおいでみず）～ポツンと佇むコワモテな田の神～



- 場 所：南西方字芹川山
- 緯 度：31° 59′ 53.8″
- 経 度：130° 54′ 33.0″
- 像 高：80cm
- 像 幅：66cm
- 持 物：なし
- 冠 物：笠?、冠?
- 年 代：享保10年10月(1725年)
- 奉納(建立)者：不明



P57 T-3

南西方の芹川山地区の田畑の畔に鎮座しています。この田の神は、穏やかでユーモラスな顔立ちではなく、仁王様のようないかめしいお顔をしています。

よく見ると首には補修の跡があり、顔だけ後から付けられた可能性があります。また背中には文字が刻まれており、「享保十乙巳天 奉寄進大御支配 十月吉日」とあります。



【東大出水の田の神 背面】

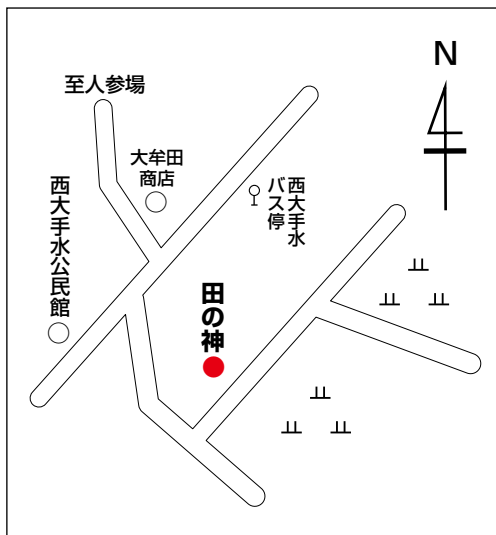
【「大御支配」の意味】

小林史談会発行「ひなもり第51号」『私説・郷土史散歩(4)』杉本充氏によると「大御支配」は鹿児島藩(薩摩藩)が幕府の命を受けずして主体的に行っていた領内総検地のことであるとしています。「検地」は土地の基本調査のことであり、田畑や屋敷の広さを測り、収穫高の算定や所持者の決定など江戸時代の政治体制の基盤ともいえるものでした。この田の神は検地が滞りなく無事行われたことを記念して造られたと考えられます。

15 西大出水（にしおいでみず） ～湧水から水を引く田の神～



- 場 所 : 南西方字大出水
- 緯 度 : 32° 0' 4.44"
- 経 度 : 130° 54' 14.3"
- 像 高 : 56cm
- 像 幅 : 58cm
- 持 物 : なし
- 冠 物 : 笠
- 年 代 : 不明
- 奉納(建立)者 : 不明



P57 S-3

県道409号線、大出水バス停近く三叉路を南東へ1つ目のT字路を左折したところにあります。笠を被り、朱色の僧衣をまとった僧侶型の田の神です。耕地整理の記念碑の横で立派な祠の中に鎮座しています。

この祠は以前は瓦葺の屋根だったようですが昭和 51 年に地元の有志によって現在の祠に改修されたとのこと。田の神の脇には南西方二区花水木会による案内板も立てられていて地区の人々に大切にされている田の神さあです。



【大出水湧水と用水】

西大出水の田の神が座す周辺の水田は、大出水集落を東西に横切る宮崎自動車道の周辺から湧き出る大出水湧水を水源としています。田の神の側にも大出水用水が流れています。

16 橋谷（はしたに） ～水路を守る田の神～



- 場 所：北西方字橋谷
- 緯 度：32° 1′ 35.3″
- 経 度：130° 54′ 14.8″
- 像 高：75cm
- 像 幅：69cm
- 持 物：右手に団子状のもの、左手なし
- 冠 物：烏帽子
- 年 代：不明
- 奉納(建立)者：不明



国道221号線、三本松バス停近くの交差点を粥餅田方面へしばらく行くと道路沿い右側1つ目の橋のガードレール先に鎮座しています。顔は若干磨滅していますが烏帽子を被り体格のがっしりした神官型の田の神です。

田の神の隣には「耕地供全の碑」が建ち、昭和41年3月竣工と刻まれています。



P57 Q-3

【橋谷(粥餅田)開田】

橋谷の田の神周辺の開田は、記録がないため不明ですが江戸時代が始まりとされさらに大正10年よりさらに5年の歳月を経て土地改良を行い、整備されたものとされています。

田の神の東側にある2基の溜池を水源とし、用水路が田の神の目の前を通り、市指定史跡粥餅田古戦場跡の辺りまで供給されています。水田の規模としては小規模ですが、田の神に見守られながら現在でも実りの多い水田地帯となっています。

17 種子田（たねだ） ～神田の近くにある田の神～



- 場 所 : 北西方字坂口
- 緯 度 : 32° 0' 44.1"
- 経 度 : 130° 57' 10.4"
- 像 高 : 69cm
- 像 幅 : 50cm
- 持 物 : 笏
- 冠 物 : 烏帽子
- 年 代 : 不明
- 奉納(建立)者 : 不明



種子田公民館より50m程西に進み道路が二股に分かれた所の中に鎮座しています。顔立ちは磨滅により不明ですが、笏を持ち烏帽子を被った神官型の田の神です。

田の神より東に150m程のところには三角田と呼ばれる神田があり、別名「御種子田（おたねだ）」とも呼ばれ地区名の由来とされています。



P55 I-1

【三角田（御種子田）】

【種子田の地名の由来】

種子田の田の神より東に250m程のところ諏訪神社があります。この神社はもとは北西方岡原地区に祀られていましたが、明治初期に移転し元々この地にあった宇賀神社と合祀され諏訪神社として北西方の鎮守社となりました。

もとの宇賀神社には農耕神、穀物の神が祀られていて、その昔神様の御躰に稲が生い茂っていたので、これを取り種子として蒔いたところが御田地（三角田）とされています。今は御種子田（おたねだ）といい、女人禁制、肥料禁制で田植えは男ばかりで行うしきたりが残っています。これが種子田の地名の由来とされています。

18 永田（ながた） ～岩場に立つ珍しいセパレート形～



- 場 所 : 須木下田字永田
- 緯 度 : 32° 4' 4.89"
- 経 度 : 131° 4' 36.6"
- 像 高 : 70cm
- 像 幅 : 43cm
- 持 物 : 右手にシャモジ、左手に碗
- 冠 物 : シキ
- 年 代 : 元文5年8月 (1740年)
- 奉納(建立)者 : 不明



P58 X-4

国道265号線沿い須木駐在所近く小林市指定史跡「米良筑後守の墓」の案内板左側の山陰、しめ縄のところにあります。目線より高い所にあり、山肌と同じ色をしているので気づきにくい田の神です。

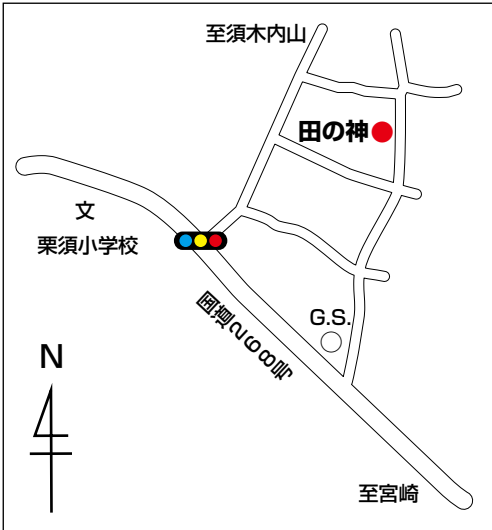
背中に「元文五年庚申八月朔日」と刻まれており、須木地区で一番古い田の神になります。



【永田の田の神の特徴】

右手にシャモジ、左手に碗を持ち、にこやかな顔の農民型の田の神です。特徴としてこの田の神は、二石でできているため、腰の部分から上下二つに分けることができます。このことは小林市内の他の田の神には見られない非常に珍しい特徴となっています。

19 水流平（つるのぞら） ～野尻原用水の恩恵～



P60 F'-4

- 場 所 : 野尻町三ヶ野山字水流平
- 緯 度 : 31° 58' 37.1"
- 経 度 : 131° 4' 30.2"
- 像 高 : 51cm
- 像 幅 : 48cm
- 持 物 : シャモジ
- 冠 物 : 烏帽子
- 年 代 : 昭和6年11月2日 (1931年)
- 奉納(建立)者 : 不明

田畑の広がる見通しの良い道路沿いに鎮座しています。以前は観音丘にて馬頭観音と一緒に祀られていたが再びこの地に戻されています。

あぐらをかきように座り烏帽子を被りシャモジを両手で持った神官型の田の神です。背中には「昭和六年十一月二日水流平」と書かれています。水流平の水田の用水は、野尻原用水と戸崎川からの用水2ヶ所から取られているようです。

【野尻原用水（野尻開田物語）】

昭和初期において野尻の地は水に乏しく、農作物の主体は粟、大豆、甘藷、麦などで当時の農民は大変貧しい暮らしをしていました。当時は他のどの作物よりも米が高く売れたため、こうした貧しい生活から脱却するために水田稲作が必要でしたが、野尻原一帯は高台であるためどうやって水を引くかで農民たちは水田稲作への夢を諦めていました。

そこに立ちあがったのが田丸貞重でした。貞重は、遠く離れた小林の川（石氷川、浜ノ瀬川、谷ノ木川）から水を引き水路を作することを立案しました。とてつもない構想のため当初、住民にはなかなか受け入れてもらえませんでした。私財を投げ打ってまで実現しようとする貞重の熱意と行動力に感化され、次第に多くの住民がこの大工事に協力することとなり昭和11年5月に約17kmの用水路が完成し、野尻原に水がもたらされ水田が造られるようになりました。この田丸貞重の偉業と功績は、現在も使用されている野尻原用水路とともに「野尻開田物語」として語り継がれています。



【こばやし文化財かるた】

20 西原（にしばる） ～神社の参道脇に鎮座する田の神～



- 場 所：野尻町三ヶ野山字西原
- 緯 度：31° 58' 39.8"
- 経 度：131° 2' 19.2"
- 像 高：56cm
- 像 幅：62cm
- 持 物：なし
- 冠 物：烏帽子
- 年 代：不明
- 奉納(建立)者：不明



国道268号沿いにある西原バス停から佐土原方面にしばらく進むと左手側に鎮座しています。朱色の衣をまとい烏帽子を被った神官型の田の神です。

もとは菅原神社東下の田んぼの土手にあったものを昭和53年に今の場所に移したとされています。

P60 F'-1



【菅原神社と毛利雅楽】

田の神の隣にある階段を上がると菅原神社があり、境内にある2体の石神像には「作者 毛利雅楽 延享二年(1745年)」と刻まれています。

雅楽の名は立野の田の神にも刻まれています。また境内には「元文五年」の銘が刻まれた庚申供養塔もあり、菅原神社の歴史が古いことを物語る資料となっています。

21 22 八所（やところ） ～夫婦？おっとい？2体並ぶ田の神～



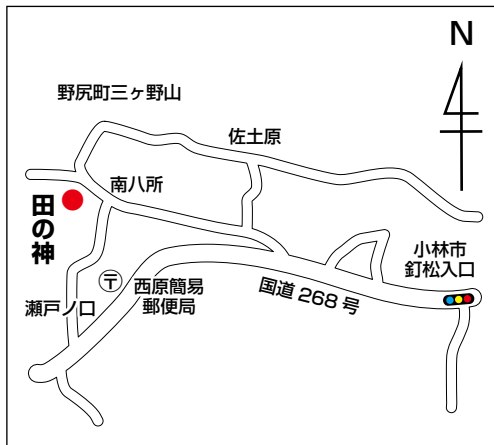
- 場 所：野尻町三ヶ野山字八所
- 緯 度：31° 58′ 59.0″
- 経 度：131° 1′ 55.1″

[22] 八所2 (写真左)

- 像 高：62cm
- 像 幅：52cm
- 持 物：右手にシャモジ
- 冠 物：シキ
- 年 代：不明
- 奉納(建立)者：不明

[21] 八所1 (写真右)

- 像 高：75cm
- 像 幅：74cm
- 持 物：なし
- 冠 物：なし
- 年 代：不明
- 奉納(建立)者：不明



P60 E-1

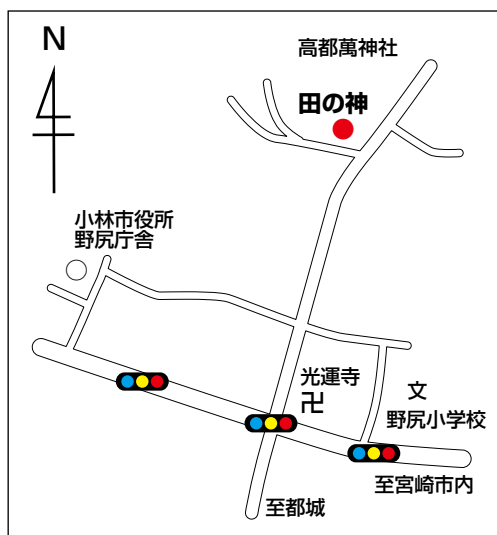


野尻町三ヶ野山の八所地区に流れる野尻用水路の脇には、二体の田の神が並んで鎮座しています。一カ所に田の神が二体あるのは珍しく、夫婦の田の神とも言われていますが、背後の碑文によると、最初に一体作られ祀られていたところこの地区がとても豊作であったため、この田の神が「おっとい」に遭い、帰ってきたときには首が無くなっていたためにもう一体を作り並んで祀ったそうです。その後、首のない田の神にも新しい頭が付けられ今に至ります。お揃いの色で並んで祀られ、仲が良さそうな田の神さあです。

23 大王（だいおう） ～野尻地区最古の田の神～



- 場 所 : 野尻町東麓字大王
- 緯 度 : 31° 57' 41.3"
- 経 度 : 131° 6' 15.9"
- 像 高 : 70cm
- 像 幅 : 80cm
- 持 物 : なし
- 冠 物 : 烏帽子
- 年 代 : 享保18年6月(1733年)
- 奉納(建立)者 : 不明



P60 G'-6

高都萬神社参道の石段を進み、鳥居をくぐると左側に鎮座しています。衣冠束帯の神官型の田の神で両手に輪組しており、笏かメシゲを立てる穴があげられています。

右肩付近に「享保十八年六月六日」と刻まれていて、野尻地区では最古の田の神です。そのためか、野尻の田の神の多くはこの形を真似て造られていると言われています。

【高都萬神社】

創建年代については詳らかではありませんが一説には飛鳥時代～奈良時代にかけての間とも云われています。名称についても以前は「大王権現」と称し、今も現地に残る「大王古」と刻まれた板碑が立つ東麓の天神丁にあったとされています。

神社には、寛文4年(1664年)、元禄5年(1692年)、宝暦13年(1751年)、文化9年(1812年)の年代の入った棟札が保管されており、江戸時代においては野尻地域の宗廟として存在していたことが伺えます。

名称については、明治元年にだされた「神仏分離令」により大王権現から高都萬神社へ変更したと考えられます。今でも拝殿正面に「大王権現」の名称が掲げられています。

24 牟田原（むたばる）

～農作業を眺められる位置に鎮座～



- 場 所：野尻町東麓字牟田原
- 緯 度：31° 56′ 54.0″
- 経 度：131° 4′ 42.6″
- 像 高：78cm
- 像 幅：40cm
- 持 物：なし
- 冠 物：烏帽子
- 年 代：不明
- 奉納(建立)者：不明



P60 H-4

牟田原バス停から大笹方面に行くと、T字路があらわれ右に行けば、坂になって下りれるのでそこを突き当りまで進んで行ったところに鎮座しています。顔は風化がひどく磨滅して目鼻立ちは分かりませんが、南西に広がる田畑を見渡せるところです。

田の神の造られた年代は不明ですが、祠については昭和55年8月に地区住民によって造られた記録が残っています。

【牟田原について】

著書『南九州をさぐる』の中で園田隆氏は、この地帯は古来より生活用水が何箇所かあって、さらに水のしみ出る土地であり牟田田(湿地帯の意味)となって牟田原と称するようになったとしています。さらに早くから開発され、江戸時代の門地として最も古い土地で肥沃土地であり、水に心配なく干ばつに強く出来も良く特等田とされた地帯であったということです。

【猿瀬・牟田原用水について】

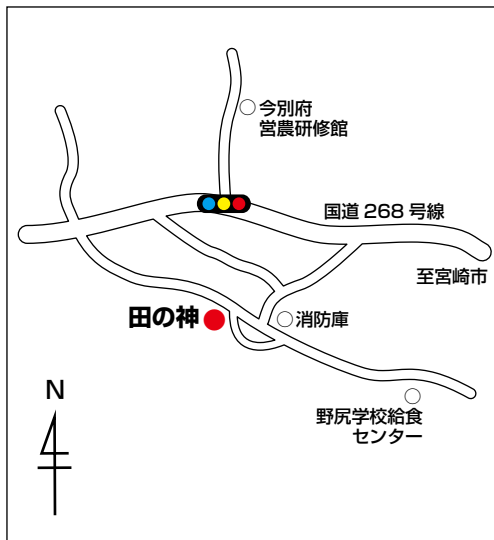
野尻町史によると、明治25年(1892年)ころ三ヶ野山字丸岡の城之下川を水源として、用水路を開設し東麓字猿瀬・小水流・中戸・境ヶ谷・久保・牟田原・勝負瀧の地域の畑・原野・宅地を開田する議が調い、工事が施工され明治42年(1909年)に完了したとあります。これにより当時地区内に居住していた関係者は北側の台地上(現、東猿瀬・牟田原)に移転したそうです。

25 今別府 (いまべっぷ)

～立派な祠に鎮座する田の神～



- 場 所 : 野尻町紙屋字今別府
- 緯 度 : 31° 57' 40.0"
- 経 度 : 131° 9' 14.8"
- 像 高 : 60cm
- 像 幅 : 50cm
- 持 物 : なし
- 冠 物 : 烏帽子
- 年 代 : 不明
- 奉納(建立)者 : 不明



国道268号線を宮崎市へ向かって萩の茶屋を過ぎ、坂を下って右折すればすぐ右側に鎮座しています。

瓦葺きの立派な祠に祀られていて、今別府老人クラブにより造られたと記録が残っています。近年、化粧直しがされたようで色鮮やかな衣が目を引く神官型の田の神です。

P61 L-4

【別府の地名の由来】

辞典等には「平安時代末期に成立した土地制度の一形態で、荘園に付属する一部区域が国司免符などによって独立的な状態になったもの」または「本来の領地とは別の追加で与えられた土地、追加で開墾した土地のこと」とあり、時代は不明ですが新たに開発された土地という意味でこの地名になったと考えられます。

読み方は「べっぷ」「べふ」「びゅう」「びう」などさまざまです。「別府」の地は全国にあります。特に九州には 300 以上あるとされています。小林市においても真方字大豆別府(だいずべっぷ)、柞別府(ゆずべっぷ)、南西方字今別府(いまべっぷ)、野尻東麓字米別府(こめんびゅう)、境別府(さかいべっぷ)、紙屋字今別府(いまべっぷ)などが地名としてあります。



- 場所：野尻町紙屋字上ノ原
- 緯度：31° 57' 42.4"
- 経度：131° 10' 12.8"
- 像高：80cm
- 像幅：72cm
- 持物：なし
- 冠物：烏帽子
- 年代：天保8年(1837年)
- 奉納(建立)者：不明



紙屋地区の上ノ原公民館の隣のお堂に馬頭観音などと一緒に鎮座しています。座っていながらも高さが80cmある大きな神官型の田の神で、なにより衣装の束帯などが丁寧に彫られて表現されているため、本当にそこに人が座っているような印象をうけるリアルな田の神さあです。



P61 L-5

【田の神の造立年代】

西上ノ原の田の神の右腕には「天保8年」(1837年)と造立年代が刻まれています。この時期は江戸時代の三大飢饉のひとつとされる天保の大飢饉が起こった時期とされています。凶作を払い、五穀豊穰を願って造られたのではないのでしょうか。

【塩の道】

西上ノ原の田の神は、高岡町浦之名深水の田の神と似ていると言われています。これは中世頃から須木～野尻～高岡の間で上納米を運び、必要な諸物資を仕入れるための道があったことに由来するのではと考えられています。高岡から須木にもたらされる必要な物資の中で特に重要な塩が運ばれていたため、この道は「塩の道」と呼ばれています。

小林市の田の神さあ

(各地区の田の神)



真方地区

[27] 水の手 (みずのて)

- 場所 真方字中島
- 緯度： 32° 0' 12.1"
- 経度： 130° 59' 16.0"
- 像高： 64cm
- 像幅： 40cm
- 年代： 大正4年（1915年）頃



国道265号線、水の手橋付近より見上げる丘の上にあります。右手にシャモジ、左手に錫杖を持っていることから僧侶型の田の神です。像の背には大正4年に山下家が加治木より移住し、この地区に田の神を寄贈したと刻まれています。

真方地区

[28] 向江馬場 (むかえばば)

- 場所 真方字向江馬場
- 緯度： 32° 0' 16.1"
- 経度： 130° 59' 7.44"
- 像高： 82cm
- 像幅： 54cm
- 年代： 不明



県道410号線沿い真方駐在所から北側に向かい、1本目のT字路を右折しまっすぐ行ったところ右手にあります。地区の常会により管理されています。

真方地区

[29] 市谷 (いちだに)

- 場所 真方字正覚原
- 緯度： 32° 0' 52.1"
- 経度： 130° 58' 56.5"
- 像高： 78cm
- 像幅： 81cm
- 年代： 安永2年（1773年）



市谷入口バス停付近の小高い山の中腹にあります。顔以外の全身を赤色で化粧を施された神官型の田の神です。

真方地区

[30] 下の馬場 (したのばば)

- 場所 真方字下の馬場
- 緯度： 32° 0' 9.29"
- 経度： 130° 59' 0.59"
- 像高： 67cm
- 像幅： 45cm
- 年代： 不明

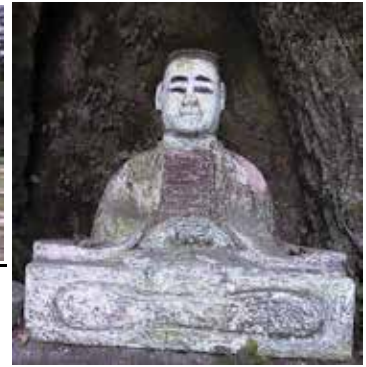


真方一区公民館敷地内に馬頭観音などと一緒に祀られています。首が無く代わりに丸い石が乗せられています。仏像の形をしているので廃仏毀釈時に破壊されたものと考えられます。

東方地区

[3 1] 東栗巣野（ひがしくりすの）

- 場所 東方字木場
- 緯度： 31° 59' 20.6"
- 経度： 131° 0' 39.5"
- 像高： 80cm
- 像幅： 67cm
- 年代： 不明



道路より5メートル程上がった所の樹木の根元に割り貫いて祠が作っており、その中に鎮座しています。

水流迫地区

[3 2] 野間の前（のまのまえ）

- 場所 水流迫字野間の前
- 緯度： 31° 59' 12.1"
- 経度： 131° 0' 15.3"
- 像高： 57cm
- 像幅： 65cm
- 年代： 不明



周りを水田に囲まれた場所にあります。年代は不明ですが、田の神さあから南西へ約250mのところには湧水を利用した綿内溜池があり、この溜池は江戸時代の頃に薩摩藩の開田事業によって作られました。

堤地区

[3 3] 柏木（かしわぎ）

- 場所 堤字柏木の上
- 緯度： 31° 57' 9.54"
- 経度： 131° 0' 22.3"
- 像高： 58cm
- 像幅： 53cm
- 年代： 不明



堤地区の広大な水田に水を供給する川無用水路沿いにあります。烏帽子を被った神官型の田の神です。

堤地区

[3 4] 東前内侍塚（ひがしまえないしづか）

- 場所 堤内侍塚
- 緯度： 31° 58' 5.23"
- 経度： 131° 0' 17.2"
- 像高： 60cm
- 像幅： 33cm
- 年代： 不明



三松小学校と三松簡易郵便局の間を進んで行くと墓地があり、その周辺の個人宅の敷地内に祀られています。笠を被った農民型の田の神で、持ち物は左右とも破損しています。

堤地区

[35] 上木場（うえこば）

- 場所 堤字木場
- 緯度： 31° 57′ 50.0″
- 経度： 130° 59′ 51.2″
- 像高： 39cm
- 像幅： 68cm
- 年代： 不明



おっとい田の神として他の地区に取られ、返却の際に首が取れてしまったとの逸話が残っています。田中の鼻と呼ばれる高台に土地改良総合事業竣工記念碑と並んで祀られています。

堤地区

[36] 川無（かわなし）

- 場所 堤字川無
- 緯度： 31° 58′ 42.0″
- 経度： 130° 58′ 58.9″
- 像高： 50cm
- 像幅： 48cm
- 年代： 享保2年（1717年）



辻の堂川から水を取り込む川無用水路の始点付近に、他の水神碑と一緒に祀られています。台座に「奉造立水神供養御神前」と刻まれており、人像の水神碑と考えられます。台座にはその他にも新田開発や用水路建設に携わったとされる複数の名前と石工「勝岡石切 七右衛門」の名前が刻まれています。

細野地区

[37] 加治屋（かじや）

- 場所 細野字加治屋堂ノ本
- 緯度： 31° 58′ 54.8″
- 経度： 130° 57′ 5.06″
- 像高： 73cm
- 像幅： 63cm
- 年代： 不明



加治屋公民館前の小山にあります。そばを流れる用水路は、延宝2年（1674年）に新田開発のために作られた出の山溜池から注がれ、周辺の水田に水を供給しています。

細野地区

[38] 湾津（わんづ）

- 場所 細野字湾津
- 緯度： 31° 58′ 44.9″
- 経度： 130° 58′ 32.7″
- 像高： 77cm
- 像幅： 56cm
- 年代： 不明



元は小林市上水道浄水場前にありましたが、現在は東に130m程離れた用水路沿いに移設されています。神官型の田の神です。

細野地区

[39] 千谷原（せんたにばる）

- 場所 細野字千谷原
- 緯度： 31° 57' 36.6"
- 経度： 130° 58' 3.02"
- 像高： 27cm
- 像幅： 22cm
- 年代： 不明



昭和22年頃、高原町広原の福原にあったものをおっとい田の神によって運んだものといわれています。持ち物や被り物等もなく、農民型か地藏型かは不明です。

細野地区

[40] 山中（やまなか）

- 場所 細野字山中今坊
- 緯度： 31° 57' 12.0"
- 経度： 130° 57' 40.0"
- 像高： 60cm
- 像幅： 35cm
- 年代： 明治22年7月（1889年）



山中バス停から宮崎自動車道方面に道なりに進み広域農道に出て右折、二つ目の十字路の角地に土地改良記念碑と一緒に鎮座しています。右手にシャモジ、左手にお椀を持った農民型の田の神です。

細野地区

[41] 秋葉神社（あきばじんじゃ）

- 場所 細野字岡原瀬戸尾山
- 緯度： 31° 59' 57.0"
- 経度： 130° 58' 4.98"
- 像高： 62cm
- 像幅： 62cm
- 年代： 不明



以前は一般企業敷地内にありましたが、昭和28年に移転しました。秋葉神社の山の神、馬頭観音等を含む6体と共に祀られています。冠を被った神官型の田の神です。

細野地区

[42] 上岡2（かみおか2）

- 場所 細野字上岡
- 緯度： 31° 59' 57.3"
- 経度： 130° 57' 40.6"
- 像高： 63cm
- 像幅： 58cm
- 年代： 大正15年（1926年）



背面に「石工前田」「賣子木御中」と刻字されています。右手にシャモジを持ち、烏帽子を被った神官型の田の神です。

細野地区

[43] 高月（たかつき）

- 場所 細野字平の前
- 緯度： 31° 59′ 15.9″
- 経度： 130° 57′ 51.9″
- 像高： 105cm
- 像幅： 87cm
- 年代： 平成21年（2009年）



南地区体育館前の水田地帯にある自然石型の田の神です。夷守の田の神と同様に平成時代に造られました。今も田の神文化がしっかりと受け継がれている証です。

細野地区

[44] 西町（にしまち）

- 場所 細野字北八反
- 緯度： 31° 59′ 46.1″
- 経度： 130° 58′ 7.50″
- 像高： 60cm
- 像幅： 30cm
- 年代： 不明



西町交差点の店舗前にあります。店主によりますと、鹿児島で購入して店先に置いているとのことでした。

細野地区

[45] 新天街1（しんてんがい1）

- 場所 細野
- 緯度： -
- 経度： -
- 像高： 120cm
- 像幅： 48cm
- 年代： 昭和57年（1982年）



背中に「昭和57年11月吉日 新天街」と文字が刻まれています。元は小林駅前であり、背文から昭和57年に駅前商店街で組織された「新天街」によって造られたものとわかります。商店街のモニュメント的なものとか商店街の発展を祈念して造られたものと考えられます。

細野地区

[46] 新天街2（しんてんがい2）

- 場所 細野
- 緯度： -
- 経度： -
- 像高： 128cm
- 像幅： 50cm
- 年代： 昭和57年（1982年）



背中に「昭和57年11月吉日 新天街商店口 建立」と文字が刻まれています。石ではなく鉄骨や金網の骨組みにセメントで成形し着色しています。[45]と同様で2体とも調査時は小林駅前広場に在りましたが、現在は細野地区内に移転されています。

南西方地区

[47] 立野1 (たての1)

- 場所 南西方字立野
- 緯度： 32° 0' 54.8"
- 経度： 130° 53' 37.1"
- 像高： 65cm
- 像幅： 55cm
- 年代： 不明



立野バス停から鬼目バス停へ向かう1つ目のT字路右側に祀られています。烏帽子を被った神官型の田の神です。

南西方地区

[48] 立野2 (たての2)

- 場所 南西方字立野
- 緯度： 32° 0' 55.7"
- 経度： 130° 53' 21.6"
- 像高： 85cm
- 像幅： 53cm
- 年代： 不明



元々は山手にありましたが、現在は個人宅敷地内に祀られています。神官型で、以前は笏を持っていた様子がうかがえます。製作者として「毛利雅楽」の名が刻まれています。

南西方地区

[49] 人参場 (にんじんば)

- 場所 南西方字鬼塚
- 緯度： 32° 0' 26.9"
- 経度： 130° 54' 26.4"
- 像高： 70cm
- 像幅： 42cm
- 年代： 不明



県道53号線、鬼塚バス停から東南に進み、願正寺手前より右折し、しばらく行くと道路沿い右側に見えてきます。頭巾を被った農民型の田の神です。奉納者として「藤崎道ノ助」の名前があり、地元の方によると昭和3~4年頃に建立されたということです。首には接いだ跡があります。

南西方地区

[50] 上芹川 (かみせいこう)

- 場所 南西方字巢の浦
- 緯度： 31° 59' 40.0"
- 経度： 130° 54' 56.8"
- 像高： 69cm
- 像幅： 47cm
- 年代： 不明



右手にシャモジ、左手は膝の上に受け手姿の農民型の田の神です。胸の部分に達筆な運びで「南無阿弥陀仏」と彫っており、神でありながらも仏を思わせる姿です。

南西方地区

[51] 芹川 (せいこう)

- 場所 南西方字芹川
- 緯度： 32° 0' 4.32"
- 経度： 130° 54' 58.4"
- 像高： 60cm
- 像幅： 36cm
- 年代： 大正5年9月 (1916年)



芹川・巢の浦両地区にわたる通称「巢の浦田圃の田の神」として建立したのですが、道路拡張に伴い移転されました。シャモジを持った農民型の田の神で、背面には「大正五年九月芹川原」の刻字があります。

南西方地区

[52] 轟木 (とどろき)

- 場所 南西方字下木場
- 緯度： 32° 0' 21.2"
- 経度： 130° 54' 59.4"
- 像高： - cm
- 像幅： - cm
- 年代： 不明



自然石の田の神です。戦前は小祠の中に祀られていましたが、現在は露天状態です。四方を田圃で囲まれた小高い丘に位置し、霧島勧請の旧跡であるといわれています。

南西方地区

[53] 元窪田 (もとくぼた)

- 場所 南西方字窪田刈目
- 緯度： 32° 0' 17.2"
- 経度： 130° 55' 29.3"
- 像高： 36cm
- 像幅： 21cm
- 年代： 明治39年8月18日 (1906年)



背面に「明治三十九年八月十八日、小林村大字南西方窪田」の刻字があります。以前は木造の小祠の中に祀られていました。右手にシャモジ、左手にお椀、頭にシキを被った農民型の田の神です。

南西方地区

[54] 熊の迫 (くまのさこ)

- 場所 南西方字熊迫
- 緯度： 31° 59' 42.7"
- 経度： 130° 57' 17.8"
- 像高： 78cm
- 像幅： 84cm
- 年代： 安永3年 (1774年)



県道53号線、板橋バス停から総合運動公園方面へ進み、左側に設置されている鉄塔横の小屋の中に祀られています。馬頭観音、聖観音とともに祀られ、三体で通称「熊迫馬頭観音」と呼ばれています。

北西方地区

[55] 大久保 (おおくぼ)

- 場所 北西方字大久保
- 緯度： 32° 0' 39.6"
- 経度： 130° 55' 20.0"
- 像高： 80cm
- 像幅： 50cm
- 年代： 不明



JR西小林駅から県道409号線を国道221号線へ向かって住宅街を抜けた右側に祀られています。両手で何かを持っていた形跡があります。神官型の田の神です。

北西方地区

[56] 勧請 (かんじょう)

- 場所 北西方字勧請岡
- 緯度： 32° 1' 41.4"
- 経度： 130° 55' 41.7"
- 像高： 59cm
- 像幅： 52cm
- 年代： 明治32年3月18日 (1899年)



元々の田の神はおっとい田の神に会い隣接するえびの市の堀浦地区に移り、現在のものは新しく造られたものです。左手にシャモジを持った農民型の田の神です。

北西方地区

[57] 深草 (ふかくさ)

- 場所 北西方字調練場
- 緯度： 32° 1' 30.1"
- 経度： 130° 55' 58.9"
- 像高： 59cm
- 像幅： 21cm
- 年代： 不明 (背石左右に銘があったらしいが、削除され判読不可)



この像は菩薩型の仏像で、元々は田の神以外の趣旨で建立されたものです。明治初年の廃仏毀釈に会い、碑銘を消すことによって水神又は田の神様として生まれ変わり、破壊を免れたものではないかと考えられています。

北西方地区

[58] 岡原 (おかはら)

- 場所 北西方字七ツ山
- 緯度： 32° 2' 45.1"
- 経度： 130° 56' 34.9"
- 像高： 47cm
- 像幅： 19cm
- 年代： 明治33年3月4日 (1900年)



右手にシャモジ、左手にお碗を持った農民型の田の神です。岡原のこの辺りを開田した際、水不足などが起こらないようにと建立されたといわれています。

北西方地区

[59] 牟田原（むたばる）

- 場所 北西方字牟田原
- 緯度： 32° 1' 41.7"
- 経度： 130° 54' 52.2"
- 像高： 54cm
- 像幅： 22cm
- 年代： 昭和63年（1988年）



牟田原の圃場整備事業が完成した際に記念碑と共に田の神様建立の要望があり、設置されたものです。両手でシャモジを持ち、コシキを被った農民型の田の神です。

北西方地区

[60] 永久津（ながくつ）

- 場所 北西方字柚木山
- 緯度： 32° 1' 14.7"
- 経度： 130° 58' 10.7"
- 像高： 59cm
- 像幅： 46cm
- 年代： 平成16年9月26日



県道404号線、永久津バス停近くの交差点を深草方面へ進んだ先の、永久津公民館前の角地にあります。この田の神は土木作業中に地下から発掘され、現在地に再建されたものです。元は五輪塔などの残欠と思われます。

須木地区

[61] 下田（しもだ）

- 場所 須木下田字永田
- 緯度： 32° 4' 6.35"
- 経度： 131° 4' 37.2"
- 像高： 77cm
- 像幅： 26cm
- 年代： 安政5年3月（1858年）



元は、旧番屋橋より一麟寺に向かう直線道路（中島道）の中間付近にあったものを昭和50年下田圃場整備事業に伴い、現在地に移されたものです。正面には「安政五戊午三月吉日 奉再興中島大明神守 現一麟鉄明代」と刻まれていて、元々は江戸時代末期に建立された記念碑と考えられます。

須木地区

[62] 夏木（なつき）

- 場所 須木鳥田町字夏木
- 緯度： 32° 5' 48.5"
- 経度： 131° 2' 51.7"
- 像高： 41cm
- 像幅： 41cm
- 年代： 不明



その昔高岡よりこの地に持って来た「おっとい田の神」の言い伝えがある田の神様です。過去に3回移転されていますが、昭和60年5月の道路改良により現在地に安置されました。神官型の田の神です。

須木地区

[63] 内山 (うちやま)

- 場所 須木内山字向江
- 緯度 : 32° 0' 22.1"
- 経度 : 131° 6' 51.6"
- 像高 : 142cm
- 像幅 : 33cm
- 年代 : 不明



個人宅の入り口右側に祀られており、100年以上前から現在の場所に鎮座してあったとのこと。向江から下村にかけての開田が行われた時に安置されたものと思われます。文字等が刻まれていない自然石の田の神です。

野尻町三ヶ野山地区

[64] 相牟田 (あいむた)

- 場所 野尻町三ヶ野山字相牟田
- 緯度 : 31° 58' 19.5"
- 経度 : 131° 4' 55.5"
- 像高 : 65cm
- 像幅 : 44cm
- 年代 : 大正2年8月



相牟田バス停より大脇方面へ進んだ先にある湧水の池の岸に安置されています。農民型の田の神です。

野尻町三ヶ野山地区

[65] 角内 (つのうち)

- 場所 野尻町三ヶ野山字角内
- 緯度 : 31° 59' 18.3"
- 経度 : 131° 4' 56.7"
- 像高 : 75cm
- 像幅 : 48cm
- 年代 : 不明



角内バス停から野尻方面に進んだ先にある「きよの神境内に祀られています。元は火の神様と一緒に祀られていましたが馬頭観音などと一緒に移転されました。神官型の田の神です。

野尻町三ヶ野山地区

[66] 小坂 (こさか)

- 場所 野尻町三ヶ野山字小坂
- 緯度 : 31° 58' 8.16"
- 経度 : 131° 4' 26.0"
- 像高 : 68.5cm
- 像幅 : 60cm
- 年代 : 不明



国道268号線、小坂バス停から南東方面に進み、3棟並びの住宅の横に祀られています。両手でシャモジを持った、神官型の田の神です。

野尻町三ヶ野山地区

[67] 大脇（おおわき）

- 場所 野尻町三ヶ野山字大脇
- 緯度： 31° 58' 26.8"
- 経度： 131° 4' 10.9"
- 像高： 65.5cm
- 像幅： 44cm
- 年代： 不明



以前はバス停前の国道沿いに祀ってありましたが、道路拡張の際に移転されました。国道268号線、大脇バス停近くのT字路を入ってすぐの右側に祀られています。農民型の全身立像の田の神で右手にシャモジ、左手にはすりこ木を持っています。

野尻町三ヶ野山地区

[68] 栗須観音丘（くりすかんのんおか）

- 場所 野尻町三ヶ野山字大脇渡
- 緯度： 31° 58' 39.4"
- 経度： 131° 3' 59.1"
- 像高： 68cm
- 像幅： 64.5cm
- 年代： 不明



国道268号線、東栗須バス停から宮崎方面へ少し進み、左へ入った先にある鳥居の奥にあります。馬頭観音と一緒に祀られている神官型の田の神です。

野尻町三ヶ野山地区

[69] 大沢津（おおさわつ）

- 場所 野尻町三ヶ野山字山神
- 緯度： 31° 58' 56.4"
- 経度： 131° 3' 25.2"
- 像高： 74cm
- 像幅： 68cm
- 年代： 不明



大沢津バス停から佐土原方面へ突き当たりまで進み、八尾神社の鳥居をくぐった先に祀られています。像の横にある石柱に「奉納 明治百年記念 沢口盛武」と付記されています。シャモジを持った神官型の田の神です。

野尻町三ヶ野山地区

[70] 丸岡（まるおか）

- 場所 野尻町三ヶ野山字丸岡
- 緯度： 31° 58' 16.7"
- 経度： 131° 3' 28.1"
- 像高： 63cm
- 像幅： 48.5cm
- 年代： 昭和13年3月



釘松バス停から一つ目のT字路を左に曲がると、右手の丘に鳥居が見えてきます。その近くに馬頭観音、山之神、水神と共に祀られています。シャモジを持った神官型の田の神です。

野尻町三ヶ野山地区

[7 1] 野々崎 (ののざき)

- 場所 野尻町三ヶ野山字佐土瀬原
- 緯度： 31° 58' 39.0"
- 経度： 131° 2' 55.1"
- 像高： 60cm (台座込)
- 像幅： 47cm (台座部分)
- 年代： 不明



国道268号線、野々崎バス停から佐土瀬方面へ少し進んだ先、ガードレール手前に馬頭観音と一緒に祀られています。シャモジを持った神官型の田の神です。

野尻町三ヶ野山地区

[7 2] 佐土瀬 (さどせ)

- 場所 野尻町三ヶ野山字佐土瀬原
- 緯度： 31° 58' 34.9"
- 経度： 131° 2' 49.0"
- 像高： 51cm
- 像幅： 47.5cm
- 年代： 昭和11年4月



国道268号線、野々崎バス停を佐土瀬方面へ下りていくと、青い屋根の社の中に祀られています。シャモジを持った神官型の田の神です。

野尻町東麓地区

[7 3] 大久保 (おおくぼ)

- 場所 野尻町東麓字丸岡
- 緯度： 31° 56' 46.0"
- 経度： 131° 7' 6.45"
- 像高： 63 cm
- 像幅： 38 cm
- 年代： 不明



丸岡バス停から大久保方面へ下った先にある、丸岡農村公園敷地内に祀られています。右手にシャモジ、左手には棒を持った立像です。踊る姿の農夫型は野尻ではまれな田の神です。

野尻町東麓地区

[7 4] 中の丁 (なかのちょう)

- 場所 野尻町東麓字戸崎
- 緯度： 31° 57' 22.4"
- 経度： 131° 6' 10.3"
- 像高： 60cm
- 像幅： 50cm
- 年代： 不明



天神丁バス停からのじりこびあ方面へ向かう住宅街に祀られています。両手を輪組にした田の神です。

野尻町東麓地区

[75] 夜川松 (よがわまつ)

- 場所 野尻町東麓字夜川松
- 緯度： 31° 57' 36.3"
- 経度： 131° 5' 51.8"
- 像高： 65cm
- 像幅： 50cm
- 年代： 不明



国道268号線、銀行右隣に伊集院源次郎忠眞の供養塔と共に祀られています。両手を輪組にした神官型の田の神です。

野尻町東麓地区

[76] 切畑 (きりはた)

- 場所 野尻町東麓字切畑
- 緯度： 31° 57' 57.3"
- 経度： 131° 5' 36.7"
- 像高： 74cm
- 像幅： 67cm
- 年代： 不明



切畑バス停から国道268号線に向かって一つ目の道を左に進み十字路を右へ下りていくと、橋の手前に祀られています。両手でシャモジを持った、神官型の田の神です。

野尻町東麓地区

[77] 東吉村 (ひがしよしむら)

- 場所 野尻町東麓字吉村
- 緯度： 31° 57' 46.0"
- 経度： 131° 6' 41.5"
- 像高： 86cm
- 像幅： 68cm
- 年代： 天保13年12月 (1842年)



吉村バス停から吉村五輪塔群の案内柱へ進んだところにある、吉村五輪塔群のすぐ先に祀られています。両肩にシャモジ、両手輪組をして宝珠を持った農民型で、大黒天を混合した大型の田の神です。隣には石型と神官型が祀られています。

野尻町東麓地区

[78] 西吉村 (にしよしむら)

- 場所 野尻町東麓字西吉村
- 緯度： 31° 57' 51.5"
- 経度： 131° 6' 39.4"
- 像高： 60cm
- 像幅： 48cm
- 年代： 昭和14年(1939年)



吉村バス停前、西吉村公民館敷地内に祀られています。両手でシャモジを持った、神官型の田の神です。

野尻町東麓地区

[79] 上跡瀬1 (うえあとぜ1)

- 場所 野尻町東麓字跡瀬原
- 緯度： 31° 56' 33.8"
- 経度： 131° 5' 56.9"
- 像高： 65cm
- 像幅： 50cm
- 年代： 不明



跡瀬バス停から本城原方面へ進み、十字路を左に曲がり県道42号線に入るT字路を右へ曲がった所に祀られています。両手輪組をした田の神です。

野尻町東麓地区

[80] 上跡瀬2 (うえあとぜ2)

- 場所 野尻町東麓字上野原
- 緯度： 31° 56' 18.9"
- 経度： 131° 6' 10.2"
- 像高： 43cm
- 像幅： 40cm
- 年代： 不明



跡瀬バス停から南東に進んだ所に設置されている鳥居のそばに、馬頭観音と一緒に祀られています。頭に長い頭巾を被り、法衣らしき衣類をまとい正座しているので、仏像型の田の神と言えます。

野尻町東麓地区

[81] 東猿瀬 (ひがしざるぜ)

- 場所 野尻町東麓字猿瀬
- 緯度： 31° 57' 20.9"
- 経度： 131° 3' 53.3"
- 像高： 48cm
- 像幅： 28cm
- 年代： 昭和3年 (1928年)



東猿瀬バス停そば交差点から県道29号線を西猿瀬方面へ進み、広域農道へと向かう途中にあります。頭にコシキを被り、右手にシャモジ、左手に棒を持った、田の神舞をする田の神です。

野尻町東麓地区

[82] 天ヶ谷 (あまがたに)

- 場所 野尻町東麓字天ヶ谷
- 緯度： 31° 57' 30.5"
- 経度： 131° 7' 40.7"
- 像高： 125cm
- 像幅： 63cm
- 年代： 不明



国道268号線、天ヶ谷バス停から平木場へ進み、坂の途中にある赤い鳥居と説明板らしきものの横に祀られています。やや大型の自然石の田の神です。

野尻町東麓地区

[83] 境別府 (さかいべつぷ)

- 場所 野尻町東麓字境別府
- 緯度： 31° 57' 3.10"
- 経度： 131° 8' 2.56"
- 像高： 23.5cm (中央の石)
- 像周： 35.5cm (中央の石)
- 年代： 不明



境別府バス停から岩瀬ダム方面へ進む左カーブの途中、左手にある杉林の中に祀られています。小型の自然石を並べた田の神で、コンクリートの外壁で囲まれています。

野尻町東麓地区

[84] 大平山 (おおひらやま)

- 場所 野尻町東麓字大平山
- 緯度： 31° 58' 7.93"
- 経度： 131° 7' 47.8"
- 像高： 47cm
- 像幅： 35cm
- 年代： 昭和13年2月 (1938年)



大平山バス停から南西方面へ向かい、萩ノ茶屋手前から左へ進んだ先の三叉路に祀られています。右手に笏、左手に宝珠を持った神官型の田の神です。右側にも石碑が祀られています。

野尻町東麓地区

[85] 陣原 (じんばる)

- 場所 野尻町東麓字田子ノ下
- 緯度： 31° 57' 33.1"
- 経度： 131° 4' 56.3"
- 像高： 78cm
- 像幅： 70cm
- 年代： 昭和34年 (1959年)



陣原バス停より南方面へ進み、県道29号線を越えた左カーブの先に祀られています。両手でシャモジを持った神官型の田の神です。

野尻町東麓地区

[86] 大笹 (おおざさ)

- 場所 野尻町東麓字小笹
- 緯度： 31° 56' 26.8"
- 経度： 131° 4' 59.1"
- 像高： 51cm
- 像幅： 26cm
- 年代： 不明



大笹納骨堂霊園の入口近くに、馬頭観音と共に祀られています。両手を輪組みしている地蔵型の田の神です。

野尻町紙屋地区

[87] 上漆野（かみうるしの）

- 場所 野尻町紙屋字新村
- 緯度： 31° 57' 59.7"
- 経度： 131° 11' 35.5"
- 像高： 67cm
- 像幅： 10cm
- 年代： 不明



自然石の田の神で、馬頭観音と似たような石と共に祀られています。国道268号線西新村バス停から漆野方面への坂道を上がり、右手の鳥居奥の社の中にあります。

野尻町紙屋地区

[88] 下漆野（しもうるしの）

- 場所 野尻町紙屋字山城
- 緯度： 31° 58' 42.2"
- 経度： 131° 11' 40.3"
- 像高： 35cm
- 像幅： 25cm
- 年代： 不明



自然石の田の神です。県道401号線沿い、下漆野バス停近くに弘法大師を祀った社があり、その階段を上った左側に祀られています。

野尻町紙屋地区

[89] 東新村（ひがししんむら）

- 場所 野尻町紙屋字新村
- 緯度： 31° 57' 53.6"
- 経度： 131° 11' 26.2"
- 像高： 56cm
- 像幅： -cm
- 年代： 不明



国道268号線沿いの西新村バス停近くに祀られています。両手で笏を持った神官型の田の神です。祠の扉の奥にこの田の神と首なしの像があり、扉前には女の子のような田の神と観音様が祀ってあります。

野尻町紙屋地区

[90] 市ノ瀬（いちのせ）

- 場所 野尻町紙屋字市ノ瀬
- 緯度： 31° 58' 34.9"
- 経度： 131° 10' 58.9"
- 像高： 46cm
- 像幅： 37cm
- 年代： 昭和10年



県道401号線を秋社川自治公民館から奈佐木方面へ進んだ三叉路突き当たりに祀られています。両手で笏を持った神官型の田の神です。

野尻町紙屋地区

[9 1] 市ノ瀬2 (いちのせ2)

- 場所 野尻町紙屋字市ノ瀬
- 緯度： 31° 58' 34.9"
- 経度： 131° 10' 58.9"
- 像高： - cm
- 像幅： - cm
- 年代： 不明



県道401号線を秋社川自治公民館から奈佐木方面へ進んだ三叉路突き当たりに祀られています。市ノ瀬の田の神の隣にある首なしの像で、旧田の神です。

野尻町紙屋地区

[9 2] 東新町1 (ひがししんまち1)

- 場所 野尻町紙屋字石切
- 緯度： 31° 57' 48.5"
- 経度： 131° 10' 40.1"
- 像高： 48cm
- 像幅： 36cm
- 年代： 不明



東新町バス停から旧町バス停に向かう坂の途中、左側に祀られています。右手にシャモジ、左手にすりこ木を持った農民型の田の神です。

野尻町紙屋地区

[9 3] 東新町2 (ひがししんまち2)

- 場所 野尻町紙屋字石切
- 緯度： 31° 57' 48.5"
- 経度： 131° 10' 40.1"
- 像高： - cm
- 像幅： - cm
- 年代： 不明



東新町バス停から旧町バス停に向かう坂の途中、左側に祀られています。東新町の田の神の右下に置かれている、首のない旧田の神です。

野尻町紙屋地区

[9 4] 立神 (たてがみ)

- 場所 野尻町紙屋字沖ノ尾
- 緯度： 31° 57' 2.62"
- 経度： 131° 10' 52.9"
- 像高： 38cm
- 像幅： 24cm
- 年代： 昭和2年



立神バス停から星柳バス停方面へ進んだ左手の杉木立の中に馬頭観音と一緒に祀られています。

野尻町紙屋地区

[95] 池ノ尾 (いけのお)

- 場所 野尻町紙屋字池ノ尾
- 緯度： 31° 57' 0.62"
- 経度： 131° 9' 39.9"
- 像高： 38cm
- 像幅： 35cm
- 年代： 大正7年6月



池ノ尾バス停近く、池ノ尾公民館敷地内に祀られています。両手で笏を持った神官型の田の神です。



野尻町紙屋地区

[96] 黒園原 (くろぞのぼる)

- 場所 野尻町紙屋字黒園原
- 緯度： 31° 57' 22.0"
- 経度： 131° 9' 31.0"
- 像高： 58cm
- 像幅： 26cm
- 年代： 不明



黒園原バス停から南今別府バス停方面へ少し進んだ右側に祀られています。



野尻町紙屋地区

[97] 西川内 (にしかわち)

- 場所 野尻町紙屋字川内
- 緯度： 31° 58' 5.44"
- 経度： 131° 10' 4.85"
- 像高： 40cm
- 像幅： 33cm
- 年代： 不明



川内バス停から八久保バス停方面へ少し進んだ右側に祀られています。神官型の田の神です。



野尻町紙屋地区

[98] 八久保 (はちくぼ)

- 場所 野尻町紙屋字八久保
- 緯度： 31° 58' 25.5"
- 経度： 131° 9' 36.0"
- 像高： 72cm
- 像幅： 55cm
- 年代： 不明



八久保バス停北側の、牛舎の裏辺りに祀られています。両手で笏を持った神官型の田の神です。



【 参考文献 】

- 飯田友春「堤・郷土巡り」『ひなもり 第4号』小林史談会 昭和38年
小林市『小林市史 第一巻』 昭和40年
小林市『小林市史 第二巻』 昭和41年
野尻町教育委員会『野尻町の文化財』 昭和57年
須木村教育委員会『須木村の文化財』 昭和63年
宮崎県『宮崎県史 資料編 民俗1・2』 平成4年
宮崎県教職員互助会『石が語るふるさと』 平成5年
野尻町『野尻町史』 平成6年
須木村『須木村史』 平成6年
青山幹雄『宮崎の田の神像』鉦脈社 平成9年
小林市『小林市史 第三巻 戦後編』 平成12年
えびの市・えびの市教育委員会『田の神さあ』 平成14年
宮崎県教職員互助会『ふるさとのみち 宮崎の街道』 平成18年
小林市教育委員会『小林市の田の神さあ』 平成19年
園田隆『南九州をさるく』 平成21年
霧島市教育委員会『霧島市の田のかんさあ』 平成22年
杉本充「私説・郷土史散歩（四）」『ひなもり 第51号』小林史談会 平成23年



小林市の田の神さあ

平成31年 3月

編集・発行： 小林市教育委員会

住 所： 小林市細野38番地1

T E L： 0984-22-7912

印 刷： 有限会社ソーゴグラフィックス

小林市の田の神さあ

